

北浦かほる* ○萩原美智子**

(*大阪市大, **大手前女子短大)

1 はじめに 予定の有無によって子供の行動は大きく異なるので、日常の行動目的と距離から生活圏の広がり求めた。日常生活圏については、大人と一緒に行く場所や電車や自動車など交通手段を使う場所は除き、子供自身が自らの足で行動する範囲を求めた。

2 調査概要 子供の生活行動分類の中から外出行動を取りだし、各行動について普段良く行く場所の具体的な名称をたずね、その位置を地図上に記入してもらった。また各行動については徒歩・自転車等の交通手段と、大人の同伴を尋ねた。

3 結果 目的地までの道のりは、500m以内が過半数で1 kmを超える所は1.5割程度と少なく、平均約550mであった。目的別にみると、通学距離が平均658m、遊び428m、習い事593mであった。遊び場所は家から遠くなるほど少なくなり、500m以内が7割弱を占め近くで遊んでいた。各人の行動最大距離は500mから1.5 km圏の範囲に半数が入る。最大距離の行為目的は、学校(40%)、習い事(25%)、遊び(18%)などで、通学や習い事で広がっている。自転車で行動する子供は7割みられ、500m以上は自転車が多くなり行動範囲を広げていた。小学低・中学年の子供が自分の足で行動する日常生活圏の中で遊びの範囲は狭く、通学や習い事などで広がっていることが分かった。

謝辞 本研究は卒論生木下恵津子氏との共同研究であることを記して感謝の意を表す。